

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370400543		
法人名	医療法人社団 荒尾クリニック		
事業所名	グループホームあらお グループホーム1階		
所在地	熊本県荒尾市荒尾539番地1		
自己評価作成日	令和4年1月21日	評価結果市町村受理日	令和4年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和4年2月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣接の病院と緊密に連携をとり、入居者の健康管理に努めている。入居者に異変や異常があれば、すぐに病院の看護師や医師と連絡を取れる体制が出来ている。新型コロナウイルスのワクチン接種も隣接の病院で行い、入居者の状態をよく知った主治医にて対応して頂けた。病院からコロナに対しての情報もすぐに連絡が入り新型コロナウイルスへの対応が早く出来た。面会では窓越しにて面会を行い、なるべく関係が途切れない様に努めた。看取りに関しては隣接の医師が往診に来られ酸素供給や点滴など対応してもらい家族の方にも大変喜んで頂けた。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念である“家族や地域の方と協力し毎日の生活が快適に…”を実現すべく、管理者を中心として全職員が一致協力するホームである。職員の入れ替わりも少なく、意思疎通の良い関係が築かれ、高齢化や重度化(平均年齢95歳、平均介護度3.3)、及びコロナ感染症に真摯に向き合い、外に出ることが難しい中、職員の温かい見守りと入居者同士が楽しめる環境を整える等今できる最大限のケアに取り組んでいる。隣接の協力病院との強固な連携は、ホームに入居して長く生活が出来る要因となり、職員の気づきあるケアが異常の早期発見として生かされ、「このホームで最期まで」との思いに応えた献身的な姿勢を高く評価したい。これまで築き上げてきた地域との関係性がコロナにより希薄になる中で、収束後を見据えた管理者の対応(挨拶回り等)が交流の再スタートとして生かされるであろうと大いに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新型コロナにて、地域との交流が極端に減少したが家族との連絡を密に行い、コロナワクチン接種後の入居者の状態等を報告したりして、面会等も窓越し等、快適に過ごせる様に努めた。	家族や地域の方と協力し、毎日の生活が快適に…とする開設当初からの理念を掲げ、コロナ禍という中、ホームの中でゆっくりと家のように過してもらう事に注視している。職員は立上げ時からの勤務など異動も少なく、普段の生活を守った1年であると振り返っている。	コロナ禍により、職員が集まることも厳しい現状のなかで、職員の温かいケアや見守り、気づきを生かしたケアが入居者同士の楽しみある生活に繋がっている。新年度に向け、ホームとして目標を立ててみる事も良いと思われる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナ流行にて、交流が減り地域との繋がりが絶たれない様に、地域の代表者や民生委員には連絡を入れており、コロナ終息後には交流を再開して頂ける様に努めた。	例年であれば、地区の総会への参加や、ホーム前での子ども会とのラジオ体操(夏休み)等交流等が行われていた。これまで築き上げてきた地域との関係継続に、年始めには運営推進会議委員への挨拶(電話により)を忘れず、新年度には新たな子ども会の会長等をリサーチし、コロナ収束後に向け、交流を再開する意向である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響で地区の行事での発信の場もなく認知症の理解や支援の方法を発信する事ができなかった。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナで運営推進会議を行っておらず、意見を聞くことが出来なかった。地域の民生委員からは運営推進会議の再開を楽しみに待っておられ時折連絡を行っている。	運営推進会議は現在開催しておらず、行政にメールで再開について問い合わせしている現状である。民生委員とホームと良好な関係が築かれていることは再開を楽しみにされていることに表われている。、まずは2ヶ月毎に報告書を作成する等運営推進会議の再開に向けた取り組みに期待したい。	行政他外部委員の参加が困難な状況にあるが、運営推進会議の資料配布により、意見や質問等を収集する手段にされることを望みたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナでの対応やワクチン接種で分からない事は電話連絡やメールを使用し常に連絡を取っており協力出来ている。	運営推進会議の開催や、新型コロナウィルスワクチン接種等電話やメールにより相互連絡を行い、情報を共有している。また、ケアマネジャーが介護保険更新申請に出向き、訪問調査時に情報を発信している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベットから転倒しない様にマットレスを活用したり夜間はセンサーを使用し転倒防止に努めている。外に出ようとする入居者に関しては、散歩を行ったり、2階より離設が無いように見守っている。	身体拘束適正化委員会の中での検討（現在はコロナ禍により集まりは無い）や、研修会により拘束の弊害は全員が正しく認識している。拘縮のある入居者への食事介助等ケア方法の検討や、転倒防止にセンサーの利用の他、クッションマットの使用など工夫しながら拘束をしないケアを実践している。帰宅願望のある入居者等個々の状況を把握し、換気のための玄関の開放により、職員は見守りを徹底している。コロナ感染症収束次第により、あらためて研修されることを期待したい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	無記名制でのアンケート実施や職員同士で虐待を見かけたら注意を行う様にしているし、虐待に該当するかどうか職員で話している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は後見人制度を利用している入居者が居たため会議での場を利用し勉強を行っていたが、今現在はおられず、また会議を行う機械が少なかった為話し合いができなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護報酬改定の時には変更になった事を重説に新たに書き込み、郵送しご理解を頂いている。また契約時には理解不明な点なども聴き説明を行い理解に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	このようなご時世で、家族には、新聞や電話連絡にて入居者の状態を報告していた。ある家族からは「新聞にうちのばあちゃんが載ってない」とお叱りを受けた事もあり、新聞には全員が載るように注意している。	入居者には日々の会話の中から聞き取りしており、出された要望等は申し送りノートを介して共有している。家族には、電話や新聞（げんき便り）を活用した情報発信や、コロナ感染状況を踏まえ面会の再開や窓越し等検討し意見等を聞き取りされている。今後も、家族の不安解消の一環として、新聞（げんき便り）での情報発信に期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議があまり出来ない中で、申し送りノートを活用し情報を得て、部長や理事長に相談している。入居者のことは婦長が主に理事長に相談し対応を行っている。	管理者は日々のケアの中で職員とのコミュニケーションを図り、申し送りノートを介して情報を共有し、職員の意見や要望等に法人へ上申する体制としている。また、家庭の諸事情に対応した勤務態勢や職員同士の風通しの良さや仲の良い関係、意見を言い合える環境が働きやすさに繋がっている。コロナ禍にあり、各職員は出勤時に健康管理表を記入するとともに自身の健康管理を徹底している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	子供の世話で、勤務時間帯が合わない時は相談を受け理事長に相談し勤務時間を変更したり、資格を取得した職員は理事長に報告しベースアップを行って貰った。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナの影響で勉強会等が出来ない中りネットワークでの研修案内が来れば受講を勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の同業者とも中々集まらない中、電話連絡を取ったりしている。介護報酬改定時はお互いどの様な加算が取れるか情報交換しながら話し合いを行った。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時に家族等に要望等も聞き入れているが、入居者の中で筆談の方がいるが、本人が要望することをボードに書いてもらったり、要望を訪ねてケアを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に不安に思っていることを解消する為、要望や希望する事の聞き取りを行っている。その後の状況報告を含め関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約後に本人の聞き取りにより、疼痛緩和の必要性を感じ、理事長に相談し痛みの緩和に繋がるリハビリや消炎鎮痛や運動を行うサービス利用に繋がった。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方にタオルたたみや洗濯物たたみを手伝ってもらったり、食器拭き等もして頂いている。地区の話をして頂けるので、コロナ落ち着き次第、入居者の方に地区の事を尋ねていきたい。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	特変時には家族連絡を行い、状況を説明している。他科受診する場合には家族の方と一緒に同行し受診を行っている。又、自分達では入居者の不明な点がある場合は家族に訪ねて介護を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ過での面会があまり出来なかったが、家族や親せきとの面会は窓越しで行ったり、コロナが少し落ち着いた時には家族に連絡し5分間、居室での面会に努め関係が途切れない様に努めた。	外出の制限や家族等の面会も出来ない状況にあり、コロナ感染症の状況により、家族の時間制限の訪問等家族中心ではあるが馴染みの関係性を継続させるべく努力されている。日常生活の中で、相撲や将棋等に興じたり、新聞を見ては競馬の予想などホームの立地も馴染みの環境であるとともに、ホーム設立からの職員等入居者と職員との関係が馴染みの環境が出来上がっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の中で将棋好きの方が3名程おり、入居者同士で関わりあえる様に将棋盤を購入、時間がある時や、本人たちが希望する時などは将棋を指して頂いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設退去後も、利用していた方の現状を訪ねたり入院されていれば、お見舞いに行ったりして現状を訪ねている。退去後で遠方の家族には状況を説明し経過をフォローしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	筆談の方にはホワイトボードを使用し本人の意向を訪ね、最近では何を食べたいか尋ねたら「魚の煮つけが食べたい」と書かれ、魚の種類も尋ねたりして本人の意向に沿ったケアに努めている。	職員は入居者との日々の関りの中で希望等を収集し、食等に反映させている。意思疎通・発語困難、目が不自由や難聴等にホワイトボードの活用や表情で推察しながら本人の思いに応えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	将棋好きな方や、よくデイサービスで将棋を指していた等、家族等に聞き取りを行い、将棋好きな方の席を近くしたりして将棋を行えるよう職員が対応したりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	将棋を指したり、好きな競馬をTVで見たり、洗濯物たたみを行う入居者の方といった趣味や有する能力の把握に努めている。また身心の状態は日頃より排泄の管理や食事チェックにて見極める様になっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族との話し合いで、食事の量が気になるなどの事で、本人の好きな物や食べやすいものを聞き、実際の介護に反映させている。家族は、食事の量を気にされている為、訪問時や電話があったときは状況を伝えている。	本人・家族の意向等をもとに、毎月モニタリングを行い、定期的には1年毎や介護保険更新に合わせて見直している。介護計画書見直しに当たり、家族の意向を聞き取りするとともに、施設長やケアマネジャー・職員で話し合い、家族にもプランを渡している。家族の気にされる事案として特に食事等については個別に検討しプランに反映させている。申し送りノートにより職員の気づきや入居者の心身の状況変化及び病院との情報交換としてのふれあいノートが活用されている。	職員の日々の気づきや心身の変化等今後もプランニングに活用いただきたい。朱書きによる追記等も良いかと思われる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートや勤務初めの申し送りにて職員の気づきや変化を申し送りするようにしている。また、個別の記録では、排泄、食事量、体重増減にて介護計画に反映したり、時には医師に情報を提供しアドバイスを貰っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方の家族には市役所の手続きの代行等を行ったり、業者の介護保険外のサービスや、法人内のサービスを利用し柔軟なサービスを行えるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響もあり、外出の機会があまり無かった。前の駐車場にて散歩等を行っていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接する病院が殆ど主治医であり、特変時にはすぐに受診出来るようになっている。入居者の看取り時は医師による往診があり医師と連携を取りながら適切な医療が出来るように支援している。	法人の医療機関をかかりつけ医として受診に向むき、看取り期になるとは往診が行われている。医院が隣接している事や看護師長による指導、アドバイスがあることは職員にとっても心強いものとなっている。専門受診については基本的に家族による対応としている。個々の健康状態を、“ふれあいノート”で共有し、医師へも報告の際の資料として生かされる等適切な医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は日頃の生活の中で入居者の状態の変化に気づきがあれば、師長を中心に相談を行い、師長が公休の場合は直接隣接の病院の看護師に連絡したり、訪問看護師へ報告し入居者の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人内にて入院となった場合は、医師や看護師等含めて情報交換を行い相談している。法人外の入院では、入院先の連携室と連絡をし、情報交換や相談に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の指針にて説明を行っている。又施設での見取りを希望される方は、事前に改めてご家族に来て頂き施設で出来る事を説明し方針を説明している。主治医、看護師と共に終末期の支援に努めている。	契約時に重度化・終末期に関するホームの取組を説明している。難しい内容でもあるが重要な支援として、思いを察しながら丁寧な説明を心掛けている。状態変化や悪化した時点で医師を含め家族と方向性などの話し合いの機会を持ち、この2年間で2名の方の看取りを支援している。コロナ禍にあり家族の要望に沿った面会は難しかったが、ガラス越しやコロナが落ち着いている時は入室してもらうなど本人・家族の思いをくみ取った支援が行われている。	看取り支援後、数人で振り返る機会はあるが、今後はその時出された意見や思いなども1ページに残しておくことも検討いただきたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生時には、隣接の医師や看護師に連絡を行う様になっている。市民HP受診や救急外来での対応の仕方は本来であれば会議にて説明を行うのだが、コロナの影響により勉強会や会議が出来ていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練、水害は今回、机上訓練のみしか行っておらずハザードマップにて確認している。火災にてコンセントの誇りやチェックを行い、取り除いたりしている。	今年度は火災訓練と、自然災害はハザードマップの確認などの机上訓練を実施している。火災訓練ではたこ足回線やコンセントの埃チェック、掃除にも取り組んでいる。訓練後の反省として、入居者の避難を職員が代役しており、実際は訓練のようにはいかない事から、法人施設との連携の必要性があがっている。災害備蓄はホーム内でも準備しているが、量や種類は不十分であるとしている。	入居者の高齢化や身体機能の低下も見られることから、今後の安全管理については、引き続き法人との協力体制の強化が期待される。災害備蓄は、リストをもとに徐々に備えていただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	契約時に個人情報の取り扱いについて同意書を交わしている。職員の中には言葉使いが悪い時も聞かれるので、注意を行い啓発に努めている。発語が難しい方には筆談にて対応している。	コロナ禍で入居者の日常もこれまでと異なり、職員はより家に居るようにゆっくり過ごしてもらえよう配慮している。呼称は苗字にさん付けを基本とし、個人情報の使用にあつたては入居時に説明を行い、同性介助については現在要望される方はおられない。身だしなみの支援として訪問カットの支援と、個別購入された保湿剤などを入浴後や就寝時に使用されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の好きな食べ物を聞き、メニューに取り入れ全部接種された。家族も大変喜ばれた。また時計を直して欲しいとの旨にて修理屋に出して直して貰った所、本人も大変喜ばれ感謝された。希望に沿えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日によって朝から起きられない入居者の方がいれば食事前まで休んで頂いたり、ずっと寝ていたい入居者には本人の気のすむまでベッドで休んで頂いたりしている。入居者の希望に沿える様に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性の髭剃りだけでなく、女性の方の髭剃り用も常備し伸びた方へのケアを行っている。また椿油等を使用し髪を整えたり身だしなみに気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者、家族に意見を聞きながら、好みを聞いたり病気やアレルギーにあった食事提供や医師よりカリウム低下の方には塩分を多めにして食事を提供したりしている。食事でもパン食の日を設ける等楽しむ物になるよう努めている。	献立作成や調理をホーム内(1階厨房で主に調理)の職員により行われている。常食が半数ほどおられるが、キザミやミキサー食、お粥の方も多くなっている。また医師の指示を受けながらアレルギーなどに対応した食事の提供に取り組んでいる。職員は現在、持参した弁当を食べており、1名が検食を兼ねて同じものを摂っている。	食べたいものの聞き取りの中で、「魚の煮つけ」と返答された方が美味しく完食されたようである。好みの料理は食の進み具合にも繋がってくると思われる。今後も個々の食べたいものや好みの料理について聞き取りや料理本などから引き出し、提供に繋がっていかれる事を期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の状態に応じて常食やキザミ食、ミキサー食を提供している。水分を飲まれない方には一日の水分量を決めて接種するように職員が気をつけている。お茶が苦手な方などにはバナナジュースや他のジュース等にて水分が接種出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯を使用されている方には夜間帯に義歯を預かり、意思疎通が困難な方にはスポンジ型の歯ブラシ等にてケアを行っている、義歯洗浄などにて異変があれば歯科医師に往診に着手している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中のトイレ介助を行なう事でGHIに入所時よりはトイレで排泄することが増えた入居者の方もおり夜間でもトイレ介助を行う入居者の方もおられる。PTイレも使用されている入居者もおりそれぞれが希望する排泄に努めている。	排泄介助を必要とされる方が殆どであるが、時には職員による確認を必要としながら、自立でトイレを使用される方もおられる。日中は可能な限りトイレでの排泄を支援し、夜間もパットの使い分けを検討しリハビリパンツを使用されている。排泄用品を家族が準備される場合は、大きさや種類など適切に伝えている。	トイレは日々掃除を徹底しており、引き続き次の利用者のために汚れなどがないか職員による小まめな確認に期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別の記録にて排便コントロールを行っており、薬だけに頼らず起立運動や歩行訓練またヨーグルトを使用したバナナジュース等工夫を行い排便コントロールに努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は時間帯に沿って声掛けしているが、入居者の拒否などがあれば、時間帯をずらしたり、また失禁等があれば時間帯に関係なく入浴介助を行い入居者の清潔保持に努めている。	基本的に週3回、午前を中心に入浴を支援し、一般浴であり入居者の身体的負担にならないよう状況に応じて2名介助で行っている。シャワー浴が中心の方もあり、脱衣所や浴室は特に冬場の温度管理に配慮している。拒否をされる場合は時間や翌日に変更している。就寝時に汚染が多い方には早い時間に勧めたり、毎日の入浴支援により不快なく過ごしてもらえるようにしている。季節湯(菖蒲・柚子)を継続して取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝、起きられない入居者の方もおり朝食の時間をずらして、起床介助を行っている。日中、自室で休まれたりソファで横になれる入居者もいる。自分から訴えない入居者にも昼に自室にて横になって休んで頂いており休息の支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルの薬の処方箋を利用しどういった作用のお薬か職員が気になった場合調べられる様になっている。疑問点や副反応が強く出た場合には主治医に連絡し内服の変更をお願いしたりしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ドラマ好きな入居者や競馬が好きな方、また将棋が好きな方と個人の生活歴を聞いた上で楽しめるように支援に努めている。入居者の方にも洗濯物たたみ等を手伝って頂き張り合いが持てるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今回ではコロナ感染予防の為外出は行っておらず本人の希望に沿える事が出来なかったと思う。施設の駐車場にて散歩などの支援しか出来なかった。	車いす利用者が多くなっているが、できる限り歩行器を使っでの移動で筋力低下に努め、現在は敷地内の散歩や受診時が外出の機会となっている。管理者は地域や子ども会との交流など感染症の状況を見ながら以前のように取り組みたいとしている。	コロナ感染症により外出が難しいが、行きたい場所や、以前行って好評だった場所など楽しみ等情報を温めていただき、収束後の外出先として期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所の方で預かっており、本人の希望や入用があれば購入を行っている。以前は財布が無いと落ち着かない方もおられ、紛失しない様に努めていた。本人のお金の1000円を入れたりして対応していた経緯もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の中には、お嫁さんや息子に「電話かけて」と訴える入居者の方もおり、その時は電話を掛ける支援を行っている。手紙など届いたら本人に渡したり、読まれない方には朗読して支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や居間には季節感が分かるように季節の物を配置して支援を行ったり、テレビは食事時間につけないようにして集中して頂けるように工夫している。玄関にも季節の花を飾り付けたりして気持ちよく過ごせるように努めている。	玄関前の花壇は時には入居者と一緒に花の苗植えをしたり、ホーム内の飾りつけにより季節を感じてもらえるようにしている。リビングには畳コーナーを設けているが、現在は身体状況から活用に至っておらず、入居者はそれぞれソファなどお気に入りの場所でゆっくり過ごされている。コロナ感染症により改めてレイアウトを変更したことはないが、換気や消毒の徹底、3名以内での在席や密を避けた配置を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビが好きな方はテレビに近い場所や将棋が好きな方同士の席を近くにしたり将棋が見られるように場所を工夫して支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には主に家族の写真や、孫さんの写真等各々が好きな様に居室を工夫している。中には鬼平犯科帳が好きな方もおり鬼平犯科帳の漫画を部屋に多く置いている入居者もいる。	感染症の状況を見ながら新入居者には可能な限り居室内を見てもらう時間を設けている。家族の写真や、テレビ、お気に入りのマンガ本、家族の面会時に使用されるソファなどが持ち込まれ、衣類などは主に備え付けのタンスを使用されている。居室内の掃除や衣替えなど職員が中心に行っており、物品の配置も視力や歩行状態など安全面に配慮して検討している。	面会が制限されており、家族にとってホーム内の様子が気になる点と思われる。今後、家族の安心に繋がるような居室内での一コマなども写真で紹介されるとよいと思われ、検討頂きたい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日中は出来るだけトイレでの排泄を行い、介助が困難な入居者には2人介助にてトイレでの支援を行っている。歩行では、歩行器を使用したり、手引き歩行を行い介助をおこなっている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370400543		
法人名	医療法人社団 荒尾クリニック		
事業所名	グループホームあらお グループホーム2階		
所在地	熊本県荒尾市荒尾539番地1		
自己評価作成日	令和4年1月21日	評価結果市町村受理日	令和4年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和4年2月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣接の病院と緊密に連携をとり、入居者の健康管理に努めている。入居者に異変や異常があれば、すぐに病院の看護師や医師と連絡を取れる体制が出来ている。新型コロナウイルスのワクチン接種も隣接の病院で行い、入居者の状態をよく知った主治医にて対応して頂けた。病院からコロナに対しての情報もすぐに連絡が入り新型コロナウイルスへの対応が早く出来た。面会では窓越しにて面会を行い、なるべく関係が途切れない様に努めた。看取りに関しては隣接の医師が往診に来られ酸素供給や点滴など対応してもらい家族の方にも大変喜んで頂けた。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新型コロナにて、地域との交流が極端に減少したが家族との連絡を密に行い、コロナワクチン接種後の入居者の状態等を報告したりして、面会等も窓越し等、快適に過ごせる様に努めた。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナ流行にて、交流が減り地域との繋がりが絶たれない様に、地域の代表者や民生委員には連絡を入れており、コロナ終息後には交流を再開して頂ける様に努めた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響で地区の行事での発信の場もなく認知症の理解や支援の方法を発信する事ができなかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナで運営推進会議を行っておらず、意見を聞くことが出来なかった。地域の民生委員からは運営推進会議の再開を楽しみに待っておられ時折連絡を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナでの対応やワクチン接種で分からない事は電話連絡やメールを使用し常に連絡を取っており協力出来ている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベットから転倒しない様にマットレスを活用したり夜間はセンサーを使用し転倒防止に努めている。外に出ようとする入居者に関しては、散歩を行ったり、2階より離設が無いように見守っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	無記名制でのアンケート実施や職員同士で虐待を見かけたら注意を行う様にしているし、虐待に該当するかどうか職員で話している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は後見人制度を利用している入居者が居たため会議での場を利用し勉強を行っていたが、今現在はおられず、また会議を行う機械が少なかった為話し合いができなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護報酬改定の時には変更になった事を重説に新たに書き込み、郵送しご理解を頂いている。また契約時には理解不明な点なども聴き説明を行い理解に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	このようなご時世で、家族には、新聞や電話連絡にて入居者の状態を報告していた。ある家族からは「新聞にうちのばあちゃんが載ってない」とお叱りを受けた事もあり、新聞には全員が載るように注意している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議があまり出来ない中で、申し送りノートを活用し情報を得て、部長や理事長に相談している。入居者のことは婦長が主に理事長に相談し対応を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	子供の世話で、勤務時間帯が合わない時は相談を受け理事長に相談し勤務時間を変更したり、資格を取得した職員は理事長に報告しベースアップを行って貰った。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナの影響で勉強会等が出来ない中リモートワークでの研修案内が来れば受講を勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の同業者とも中々集まらない中、電話連絡を取ったりしている。介護報酬改定時はお互いどの様な加算が取れるか情報交換しながら話し合いを行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時に家族等に要望等も聞き入れているが、入居者の中で筆談の方がいるが、本人が要望することをボードに書いてもらったり、要望を訪ねてケアを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に不安に思っていることを解消する為、要望や希望する事の聞き取りを行っている。その後の状況報告を含め関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約後に本人の聞き取りにより、疼痛緩和の必要性を感じ、理事長に相談し痛みの緩和に繋がるリハビリや消炎鎮痛や運動を行うサービス利用に繋げた。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方にタオルたたみや洗濯物たたみを手伝ってもらったり、食器拭き等もして頂いている。地区の話をして頂けるので、コロナ落ち着き次第、入居者の方に地区の事を尋ねていきたい。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	特変時には家族連絡を行い、状況を説明している。他科受診する場合には家族の方と一緒に同行し受診を行っている。又、自分達では入居者の不明な点がある場合は家族を訪ねて介護を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ過での面会があまり出来なかったが、家族や親せきとの面会は窓越しで行ったり、コロナが少し落ち着いた時には家族に連絡し5分間、居室での面会に努め関係が途切れない様に努めた。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の中で将棋好きの方が3名程おり、入居者同士で関わりあえる様に将棋盤を購入、時間がある時や、本人たちが希望する時などは将棋を指して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設退去後も、利用していた方の現状を訪ねたり入院されていれば、お見舞いに行つて現状を訪ねている。退去後で遠方の家族には状況を説明し経過をフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	筆談の方にはホワイトボードを使用し本人の意向を訪ね、最近では何を食べたいか尋ねたら「魚の煮つけが食べたい」と書かれ、魚の種類も尋ねたりして本人の意向に沿ったケアに努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	将棋好きな方や、よくデイサービスで将棋を指していた等、家族等に聞き取りを行い、将棋好きな方の席を近したりして将棋を行えるよう職員が対応したりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	将棋を指したり、好きな競馬をTVで見たり、洗濯物たたみを行う入居者の方といった趣味や有する能力の把握に努めている。また身心の状態は日頃より排泄の管理や食事チェックにて見極める様にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族との話し合いで、食事の量が気になるとの事で、本人の好きな物や食べやすいものを聞き、実際の介護に反映させている。家族は、食事の量を気にされている為、訪問時や電話があったときは状況を伝えている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートや勤務初めの申し送りにて職員の気づきや変化を申し送りするようにしている。また、個別の記録では、排泄、食事量、体重増減にて介護計画に反映したり、時には医師に情報を提供しアドバイスを貰っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方の家族には市役所の手続きの代行等を行ったり、業者の介護保険外のサービスや、法人内のサービスを利用し柔軟なサービスを行えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響もあり、外出の機会があまり無かった。前の駐車場にて散歩等を行っていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接する病院が殆ど主治医であり、特変時にはすぐに受診出来るようになっている。入居者の看取り時は医師による往診があり医師と連携を取りながら適切な医療が出来るように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は日頃の生活の中で入居者の状態の変化に気づきがあれば、師長を中心に相談を行い、師長が公休の場合は直接隣接の病院の看護師に連絡したり、訪問看護師へ報告し入居者の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人内にて入院となった場合は、医師や看護師等含めて情報交換を行い相談している。法人外の入院では、入院先の連携室と連絡をし、情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の指針にて説明を行っている。又施設での見取りを希望される方は、事前に改めてご家族に来て頂き施設で出来る事を説明し方針を説明している。主治医、看護師と共に終末期の支援に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生時には、隣接の医師や看護師に連絡を行う様になっている。市民HP受診や救急外来での対応の仕方は本来であれば会議にて説明を行うのだが、コロナの影響により勉強会や会議が出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練、水害は今回、机上訓練のみしか行っておらずハザードマップにて確認している。火災にてコンセントの誇りやチェックを行い、取り除いたりしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	契約時に個人情報の取り扱いについて同意書を交わしている。職員の中には言葉使いが悪い時も聞かれるので、注意を行い啓発に努めている。発語が難しい方には筆談にて対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の好きな食べ物を聞き、メニューに取り入れ全部接種された。家族も大変喜ばれた。また時計を直して欲しいとの旨にて修理屋に出して直して貰った所、本人も大変喜ばれ感謝された。希望に沿えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日によって朝から起きられない入居者の方がいれば食事前まで休んで頂いたり、ずっと寝ていたい入居者には本人の気のすむまでベッドで休んで頂いたりしている。入居者の希望に沿える様に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性の髭剃りだけでなく、女性の方の髭剃り用も常備し伸びた方へのケアを行っている。また椿油等を使用し髪を整えたり身だしなみに気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者、家族に意見を聞きながら、好みを聞いたり病気やアレルギーにあった食事提供や医師よりカリウム低下の方には塩分を多めにして食事を提供したりしている。食事でもパン食の日を設ける等楽しむ物になるよう努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の状態に応じて常食やキザミ食、ミキサー食を提供している。水分を飲まれない方には一日の水分量を決めて接種するように職員が気をつけている。お茶が苦手な方などにはバナナジュースや他のジュース等にて水分が接種出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯を使用されている方には夜間帯に義歯を預かり、意思疎通が困難な方にはスポンジ型の歯ブラシ等にてケアを行っている、義歯洗浄などにて異変があれば歯科医師に往診に着手して頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中のトイレ介助を行なう事でGHIに入所時よりはトイレで排泄することが増えた入居者の方もおり夜間でもトイレ介助を行う入居者の方もおられる。Pトイレも使用されている入居者もおりそれぞれが希望する排泄に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別の記録にて排便コントロールを行っており、薬だけに頼らず起立運動や歩行訓練またヨーグルトを使用したバナナジュース等工夫を行い排便コントロールに努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は時間帯に沿って声掛けしているが、入居者の拒否などがあれば、時間帯をずらしたり、また失禁等があれば時間帯に関係なく入浴介助を行い入居者の清潔保持に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝、起きられない入居者の方もおり朝食の時間をずらして、起床介助を行っている。日中、自室で休まれたりソファで横になられる入居者もいる。自分から訴えない入居者にも昼に自室にて横になって休んで頂いており休息の支援を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルの薬の処方箋を利用しどういった作用のお薬か職員が気になった場合調べられる様になっている。疑問点や副反応が強く出た場合には主治医に連絡し内服の変更をお願いしたりしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ドラマ好きな入居者や競馬が好きな方、また将棋が好きな方と個人の生活歴を聞いた上で楽しめるように支援に努めている。入居者の方にも洗濯物たたみ等を手伝って頂き張り合いが持てるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今回ではコロナ感染予防の為外出は行っておらず本人の希望に沿える事が出来なかったと思う。施設の駐車場にて散歩などの支援しか出来なかった。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所の方で預かっており、本人の希望や入用があれば購入を行っている。以前は財布が無いと落ち着かない方もおられ、紛失しない様に努めていた。本人のお金の1000円を入れたりして対応していた経緯もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の中には、お嫁さんや息子に「電話かけて」と訴える入居者の方もおり、その時は電話を掛ける支援を行っている。手紙など届いたら本人に渡したり、読まれない方には朗読して支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や居間には季節感が分かるように季節の物を配置して支援を行ったり、テレビは食事時間につけないようにして集中して頂けるように工夫している。玄関にも季節の花を飾り付けたりして気持ちよく過ごせるように努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビが好きな方はテレビに近い場所や将棋が好きな方同士の席を近くにしたり将棋が見られるように場所を工夫して支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には主に家族の写真や、孫さんの写真等各々が好きな様に居室を工夫している。中には鬼平犯科帳が好きな方もおり鬼平犯科帳の漫画を部屋に多く置いている入居者もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日中は出来るだけトイレでの排泄を行い、介助が困難な入居者には2人介助にてトイレでの支援を行っている。歩行では、歩行器を使用したり、手引き歩行を行い介助をおこなっている。		